

秋雨避け早めに

～「ときわにんにく」植え付け開始～

常盤基幹支店管内で、にんにくの植え付け作業が9月上旬から始まりました。

同地区では、主に水田転作でにんにくを栽培しており、秋の長雨の影響を受けると植え付け作業が困難になるため、毎年9月上旬から植えています。

65㌦で栽培する石澤英徳さんの圃場では9月9日から植え付け作業が始まり、幅1.3㌦ほどの畝を作った上にマルチを敷き、消毒したにんにく種子を植え付けました。石澤さんは「植え付けは、割れや日焼けを防ぐため深く植えるように気を付けて作業している。昨年産以上に品質の良いにんにくを収穫できるよう努め、A品率を向上させたい」と話しました。



にんにくの種子を植え付ける作業員

初めて見た大きなナスに驚き!

～珍しい大きなナス収穫～

尾上基幹支店管内の佐藤みつよさんは9月8日、畑で大きなナスを収穫しました。約5個のナスが成長の過程でくっついてできたもので、大きさは20㌦以上。花の時からすでに大きかったと話しました。

佐藤さんは、とても珍しいので自分だけ見て終わるのはもったいないと思い9月9日にJA職員へ連絡しました。「長年農業をしてきたが、こんなに大きなナスは初めて見たのでとても驚いた。孫と一緒においしく食べたい」と笑顔で話しました。



大きなナスを収穫した佐藤さん

栄養満点秋にんじん

～にんじん出荷が本格化～

山一農産物出荷施設では、にんじんの共選作業が本格稼働している。

作業は9月16日から始まりました。同施設では、黒石市厚目内地区で収穫されたにんじんを10月1日に約5ト洗淨・選果し、規格外品含め約400から500箱（1箱/10㌦）を箱詰めしています。

JAの担当職員は「天候不良の影響もあるが、他産地に負けないよう高値販売に努めたい」と話しました。

箱詰めされたにんじんは個選入荷のものと合わせて県内や福島・東京方面などに出荷されます。

収穫作業は10月いっぱいまで行われ、共選・個選合わせて約2万4000箱の出荷を予定しています。



にんじんを選果する作業員